

Case 27-2013: A 6.5-Month-Old Boy with Fever, Rash, and Cytopenias

(New England Journal of Medicine 2013 August 29; 369(9): 853-863.)

【患者】 6.5 か月男児 【主訴】 発熱、皮疹、血小板減少

【現病歴】 昨日、両大腿内側にあざを認めていたが、今朝には大腿のあざが増え、頬・眼瞼にも紫斑を認めた。他院の診察では、患者は元気で行動異常なく、直腸温 37.4°C、脈拍 146/min、呼吸数 45/min、SpO₂ 100%(r/a)。顔、胸部、脚に多数の紫斑を認めた。検査で著明な血小板減少を認めたため当院へ紹介となった。

【発達歴】 問題なし 【周産期】 子癇前症のため帝王切開で出生、正期産

【既往歴】 外傷、鼻出血、歯肉出血の既往なし 【家族歴】 母親のいところに原因不明の脾腫

【生活歴】 3 人暮らし+犬 2 匹。保育園は欠席した。シックコンタクトなし。

【予防接種】 インフルエンザ以外は予定通り打っている

【内服薬】 来院 2 日前からアセトアミノフェン

【アレルギー】 3 か月のとき少量の調製粉乳を与えた際に蕁麻疹を認めた他は特になし

【身体所見】 直腸温 37.4°C、脈拍 146/min、呼吸数 45/min、SpO₂ 100%(r/a)、顔、胸部、脚に多数の紫斑が点在

【検査】 血液型：A Rh+、不規則抗体(-)、電解質、Ca, P, Mg, BUN, D. Bil, T. Bil, Amy, Lipase 正常、凝固系正常、肝機能検査正常、Ht 32.6%[33.0-39.0], Hb 11.2g/dL[10.5-13.5], WBC 10,400/mm³[6000-17,500] (Differential count: Neu 16[17-49], Ly 71[67-77], Atypical Ly 5[0], Mono 5[4-11], Eos 2[0-8], Bas 1[0-3]), Neu 1,460/mm³[1000-8600], Eos 830/mm³[200-500], 塗抹:小赤血球 1+, Plt 5,000/mm³[150,000-450,000], 直接 Coombs 試験(-), Cre 0.30mg/dL[0.30-1.00], Glu 111mg/dL[70-110], T.Pro 6.5g/dL[6.0-8.3], Alb 4.6g/dL[3.3-5.0], Globulin 1.9g/dL[2.6-4.1],

Question

- ・この時点での鑑別診断を考えてください。

【入院①】

抗 D グロブリン 50 μ g/kgBW が投与された。

[入院①2 日目の検査所見] Table 1 参照。他院の血液培養は陰性で、退院となった。

[退院後 2 日目 (Day 3) の検査所見] Plt 120,000

[退院後 6 日目 (Day 7) の検査所見] Ht 28.1, Hb 9.6, Ret 16.6%[0.5-1.5], Plt 32,000

[退院後 10 日目 (Day 11) の検査所見] Plt 1,000 →再入院

【入院②】

脈拍 139、呼吸数 28、体重 11.2kg、その他のバイタルサイン正常。舌、顔、大腿に紫斑を認めた。検査結果は Table 1 参照。免疫グロブリンが投与され、翌日退院となった。

[Day 21 の検査所見]

抗核抗体検査：40 倍希釈(+), 80 倍・160 倍希釈(-), Speckled pattern、抗顆粒球抗体(-) その他の検査結果は Table 1 参照。

【入院①から 1.5 か月後】

ミルクアレルギーの診断がなされた。大豆調整乳が開始された。下痢は改善したが、頻繁に嘔吐を認めた。

【入院③(入院①から 2 か月後)】

38.9 $^{\circ}$ C の発熱。セフトリアキソンに反応せず。下痢、非胆汁性嘔吐、傾眠傾向、40 $^{\circ}$ C の発熱を数日間にわたって認め、再入院となった。

体温 40 $^{\circ}$ C、脈拍 160、呼吸数 32、血圧 101/56mmHg, SpO₂ 99%(r/a)、体重 11.7kg。

咽頭検査(インフルエンザ A・B)(-)、便検査(Clostridium difficile toxin, ロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルス、寄生虫)(-)、血液培養(-)、尿培養(-)、便中・尿中還元物質(-)、腎エコー正常。その他の検査結果は Table 1 参照。

イブプロフェン、セフトリアキソン、輸液が投与された。静脈栄養が 3 日間投与された。発熱、下痢は改善した。

[入院③6 日目の検査所見] Table 1 参照。低アレルギー乳が開始された。セフィキシム、アセトアミノフェンを処方して退院となった。

[2 Mo 23 Days & 2 Mo 26 Days の検査所見] Table 1 参照。

Questions

- ・鑑別診断を考えてください。
- ・必要な検査および診断の手技をあげてください。